

ぎふ献血



Japanese Red Cross Gifu Blood Center



「はたちの献血」キャンペーンを行います!



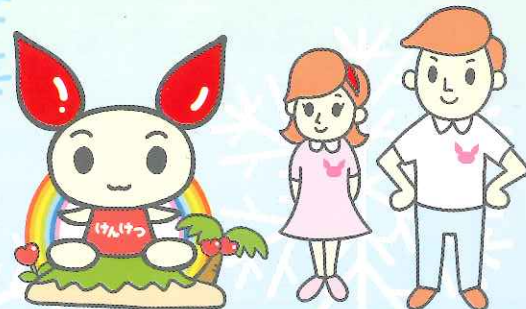
今年も羽生結弦さんをキャンペーンキャラクターとして、平成29年1月1日(日)から2月28日(火)までの2か月間、新たに成人を迎える「はたち」の若い方々を中心に、献血への理解と参加を呼びかける「はたちの献血」キャンペーンを行います。

寒さが厳しくなる季節は、風邪などで体調を崩す方が多いこともあり、献血者が減少します。冬期の輸血用血液を確保し、医療機関へ安定的に血液製剤を供給するために、特に400mL献血、成分献血の継続的な協力をお願いします。

患者さまの尊い生命を救うため、皆さまの献血へのご協力をお願いいたします。



キャンペーン期間中、献血にご協力いただいた10代から30代の初回献血協力者の方に、ポスターと同じ図柄の「オリジナルクリアファイル」を進呈いたします。(ただし、クリアファイルは、無くなり次第終了とさせていただきます。)





マーサ21でクリスマスキャンペーン開催……

このキャンペーンは、全国学生献血推進実行委員会が主催し、学生を中心に同世代の10代20代の献血の輪を広げるとともに、冬期に血液を安定的に確保することを目的として1988年から実施しています。岐阜県では12月18日(日)に実施し、当日は、サンタの衣装に身を包んだ学生ボランティアのメンバーが来店者に呼びかけ、多くの方から献血のご協力を頂きました。



▲名鉄岐阜駅前



▲多治見駅前
献血ルーム前



▲マーサ21で活動するボランティアのみなさん

現在当センターでは、下記活動場所で一緒に献血の啓発等を行っていただける学生ボランティアを募集しております。

活動場所 岐阜市 マーサ21 毎月第3日曜日
新岐阜献血ルーム 毎月第1土曜日
JR多治見駅前 毎月1回(土日)

詳しくは当センターまでお問い合わせください。



献血回数1000回達成!! from新岐阜ルーム

平成28年11月27日(日)、廣瀬仁彦さんの献血回数1000回達成を記念し、感謝状と記念品の贈呈式を行いました。

廣瀬さんは、初めて献血したのは大学1年生の時です。大学に来ていた移動献血バスを見て、友人と一緒に献血されたそうです。

その後、友人と献血回数を競うようになり、このたび1000回目の献血を達成されました。

現在は、岐阜市の新岐阜献血ルームで定期的に献血にご協力いただいております。

この日、林 勝知所長から感謝状を受け取られた廣瀬さんは、「500回を最後に表彰が無かったので、1000回が長く感じました。日本一を目指してこれからも頑張ります!」と新たな目標を語られました。

献血1000回、ありがとうございました!



▲廣瀬さんとご家族



「献血ポスターコンペティション」受賞作品決定! —最優秀賞と岐阜県在住・在学の方の作品をご紹介します—

当血液センターは、東海北陸7県の血液センターと連携して、第5回献血ポスターコンペティションを実施し、受賞作品が決定しました!

このコンペティションは、将来にわたり献血運動及び輸血医療を支えていただく青少年及び若年層の方々に、献血について関心を高めていただくことを目的として実施しています。今回は、東海北陸7県に在住又は在勤・在学の中学一年生～29歳までの方から岐阜県では、548点の応募があり、インターネット投票の結果、岐阜県在住の波多野沙綺さんの作品が「最優秀賞」に選ばれました。

また、「岐阜県赤十字血液センター所長賞」には、郷いちいさんの作品が選ばれ受賞されました。

波多野沙綺さんの作品と郷いちいさんの作品は、今後、各献血ルームに掲示しますので、若年層への献血啓発に、一役買っていただけたと思います。



最優秀賞
波多野 沙綺さんの作品



岐阜県赤十字血液センター所長賞
郷 いちいさんの作品

FC岐阜選手(U-18)が献血ルームに集血!!

12月17日(土)、サッカーJ2・FC岐阜のU-18の選手が新岐阜献血ルームに来所され献血に協力いただきました。

当センターでは、(株)岐阜フットボールクラブ様のご協力を得てFC岐阜の選手を起用した、献血推進ポスターを作成し、献血啓発活動に一役買っていただいております。

当日は、減少している若年層の方への献血PRを兼ねて、選手や職員13人が献血に参加していただきました。

「同世代に一言」とお願いしたところ、「緊張しましたが、職員の方が優しくリラックスできました。献血に来よう!」と熱いメッセージをいただきました。

献血者が減少している寒い時期でのご協力ありがとうございました!!



▲FC岐阜選手のみなさん

で〜れ
わかりやすい!

血液のお話



第22話 日本の輸血の歴史

今回は日本の輸血の歴史についてのお話です。

日本で初めて輸血が行われたのは1919年(大正8年)に九州大学で実施されたと言われております。その後、1930年(昭和5年)に浜口雄幸総理大臣(当時)が東京駅にて暴漢にピストルで撃たれるという事件が起きました。その際に、東京帝国大学の塩田教授らが駅長室内で輸血を行い、救命する事ができました。この事件により輸血が一般的に認識されるようになりました。

当時の輸血はいわゆる「枕元輸血」と呼ばれており、患者さんの隣に血液の提供者をベッドに寝かせ、注射器などに採取した血液を直接輸血する方法でした。そのため、血液の安全性に問題がありました。

今回は日本の献血の歴史についてのお話をさせていただきます。



浜口雄幸総理大臣(当時)
(国立国会図書館ウェブサイトより転載)

関中央病院グループ

献血にご協力、
ありがとうございます！
ございました！

関中央病院グループは、地域の方に喜んでいただけるヘルスケアを提供できるよう、安全・安心・良質な医療と福祉の実践

を全職員で取り組んでおります。

そこで、昨年度まで年1回の献血活動でしたが今年度より年2回開催させていただき、より一層の貢献が出来ればと考えております。



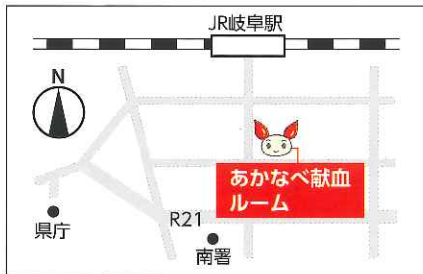
▲献血に協力いただいた関中央病院グループのスタッフのみなさん

血液センターでは献血サポーターに加入していただいている企業・団体の献血への取り組みをご紹介させていただきます。献血サポーターに加入していただける企業・団体を随時募集しております。詳しくはホームページをご覧ください。<http://www.ken-sapo.jp>



献血サポーター

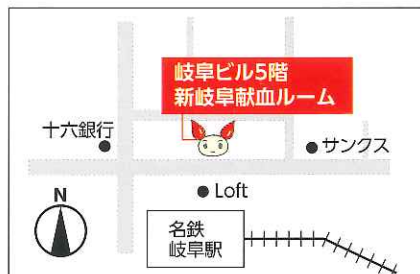
あかなべ献血ルーム (岐阜県赤十字血液センター)



岐阜市茜部中島2-10
☎ 058-272-6911

受付時間 8:30~12:00
13:00~16:30
休日 日曜日・12/29~1/3
※(臨時開設あり)

新岐阜献血ルーム



岐阜市長住町2-3 岐阜ビル5階
☎ 058-264-2122

受付時間 10:30~12:30
13:30~18:00
成分受付時間 10:30~11:45
13:30~17:30
休日 金曜日・12/29~1/3
※(臨時開設あり)

多治見駅前献血ルーム



多治見市本町1-2 駅前プラザ・テラ4階
☎ 0572-23-0227

受付時間 10:00~12:00
13:00~17:30
成分受付時間 10:00~11:30
13:00~17:00
休日 木曜日・12/29~1/3
※(臨時開設あり)

詳細はホームページをご覧ください。<http://gifu.bc.jrc.or.jp/>または [岐阜県赤十字血液センター](http://www.ken-sapo.jp)

発行：岐阜県赤十字血液センター 岐阜市茜部中島2-10 ☎058-272-6911